

虫害編-47

芝草害虫の発生生態と防除

株式会社ニチノー緑化 おお にし かず ひろ
大 西 一 弘

はじめに

我が国の芝草害虫の歴史は浅く、本格的な被害事例や生態の研究が行われるようになってから50年ほどしか経っていない。それ以前は、芝草を加害する「害虫」というよりも、芝草に生息する「昆虫」であるため、防除を必要とする位置づけではなかった。その流れが変わったのが、1970年代以降のゴルフブームで全国各地にゴルフ場が造成されたことである。当時、輸入したシバに付着した害虫が全国各地のゴルフ場に広がり、またたく間に被害を及ぼすようになった。当時、侵入したシバツトガ、シバオサゾウムシ、チガヤシロオカイガラムシが現在でも重要な芝草害虫として定着している。

昨今の温暖化の影響もあり、芝草害虫の発生生態も変わりつつあるが、本稿では、これまで明らかにされた芝草害虫の発生生態と防除について紹介する。

I 芝草害虫の種類と特徴

芝草害虫としては、チョウ目、コウチュウ目、カムシ目、バッタ目などに属する昆虫が挙げられるが、重要な害虫は、チョウ目とコウチュウ目で大部分を占めている。

1 チョウ目

(1) シバツトガ *Parapediasia teterrella*

1960年代にアメリカから侵入した害虫で、日本芝（ノシバ、コウライシバ）と西洋芝（バミューダグラス、ベントグラス、ライグラス、ブルーグラス）の両方を加害する。

【形態】

成虫は翅の開張が20mm内外、体長が8~9mmの灰白色の小型の蛾で、雌は雄よりもやや大きい。口吻は発達しており、下唇鬚（かしんしゅ）は長く前方に突出する（図-1）。成虫の生存期間は7日程度で、産卵数は150粒前後である。幼虫は6齢を経て蛹になり、老熟幼



図-1 シバツトガ成虫



図-2 シバツトガ幼虫

虫の体長は20mm内外である（図-2）。

【発生生態】

年3~4回発生するといわれているが、温暖化の影響で発生ピークの判断が難しく、ゴルフ場では越冬した幼虫が蛹化・羽化を経て、3月下旬ごろから越冬世代の成虫が発生し、継続的に10月下旬ごろまで羽化が続く。成虫は夜行性のため、日中は芝生の地際に潜んでいるが、夜になると葉上に出現し交尾・産卵を行う。7月ごろにゴルフ場で夜間調査を行うと、日没後30分を過ぎたあたりの午後8時~8時30分くらいが羽化のピークで、芝生上に羽化直後で翅を広げた成虫を多数観察することができる。また走光性があるので、ライトの光に集